

第3幕 漢と三国志の英雄たち——劉氏の器

漢の創始（前漢）——無為にして治まる

劉邦は、楚漢戦争を勝ち抜きと漢朝を創始（前漢）、首都を長安に定め、高祖と名乗りました。この王朝は、実に400年もの間にわたって中国を安定させ、中国史上最も長く存続する王朝となります。漢代には、中国独自の制度や文物が整えられていったこともあって、秦と同様に、漢も、中国を指す地名として転用されることとなります。「漢人」や「漢字」などです。

高祖（劉邦）は、秦がわずか3代で滅亡した原因を法治主義に基づく「急激な集権」にあつたと考え、「穏健な集権」を目指しました。そこで地方は一族功臣に統治を任せ、中央は皇帝が統治する、という体制をとります。周の分権的な要素と、秦の集権的な要素を融合させた、バランスのよい統治を行ったのです。

また、内外に対して消極策をとり、老荘思想にいわれる「無為にして治まる」姿勢を貫きま

す。政府は減税と減刑を心がけ、戦乱に疲れた民を休ませました（息民政策）。徳と法、そして道の精神をバランスよく取り入れたわけです（中国の見方5）。

ところで、劉邦らは天下統一のための集団であっても、支配のための集団ではありません。

劉氏一族が支配する集団として安定するには、様々な波乱を乗り越えなければなりません。た。

兵どもが夢の跡

劉邦は多くの名臣たちを擁して天下を統一しましたが、これからは、支配のための集団へと変化していかなければならず、劉氏一族の脅威となる勢力を排除する必要があります。劉邦は戦で貢献した功臣らに謀反の罪を着せて粛清を始めます。そのなかには、あの韓信もいました。

韓信は謀反の疑いをかけられて逮捕されます。かつて国士無双といわれた存在も、戦争が終わってしまえば脅威でしかありません。取り押さえられた名將は訴えます。

「果たして人の言の若し。狡兎死して良狗烹られ、高鳥尽きて良弓蔵され、敵国破れて謀臣亡ぶ」〔史記〕淮陰侯列伝

（天下を統一したあとは「蜚鳥尽きて良弓蔵され、狡兎死して走狗烹らる」ということなのでしょうか！）

春秋時代の言葉を引用したのです（p38参照）。韓信は、謀反の疑いについては保留されたものの、その地位は兵権を持たない地位に格下げとなってしまうました。以降、韓信の劉邦に対する忠誠は失われ、病と称して鬱々と過ごす日々が続きます。あれだけの功績に対してこの沙汰か、と。やがて、その思いは反逆の心となって芽生え始めます。

ある時、韓信を尊敬する人物の一人が、暗然とする韓信のもとを訪れます。この人物は陳豨ちんきといい、要衝の地に赴任することになったため、出立にあたって韓信に挨拶をしに来たのでした。韓信は意を決して彼に計画を持ちかけます。劉邦への忠誠の心はもはやなく、謀反を起して自らが天下を取る、その協力をしてほしい、と。陳豨はこれに応じます。韓信が陳豨に授けた一計は次の通り。赴任する地で陳豨が反乱を起こす、劉邦は陳豨を信頼しているため、激怒して自ら鎮圧に乗り出すだろう、すると首都の長安は留守になる、しかも、陳豨が反乱を起こす地は要害で簡単に鎮圧できるものではない、その間に韓信が長安を掌握して天下に号令をかければ諸侯は応じるだろう、というものです。陳豨は韓信であればそれができると確信しました。

計画は、陳豨の反乱に対して劉邦が自ら鎮圧に乗り出すところまでは想定した通りに運びました。ところが、韓信に恨みを持つ下僕の密告によって、彼の関わりが露呈してしまいます。劉邦なき長安で計画の取り潰しに貢献したのは蕭何しょうかでした。彼は、すぐさま手を打ち、陳豨による反乱が鎮圧されたとの偽の情報を長安に流します。この場合、長安にいる諸侯は祝辞を述べるために参内しなければなりません。韓信もその一人でしたが、韓信は用心深く、病氣と称して参内しませんでした。蕭何は参内するよう韓信に打診します。蕭何は韓信を雑兵から將軍に引き立てた人物です（p.60参照）。蕭何だけは韓信も信頼していたのでしよう。しかし、参内した場で取り押さえられてしまいます。

「吾、蒯通かいとうの計を用いざりしことを悔ゆ」（『史記』淮陰侯列伝）

（蒯通の言葉を用いなかったがために……）

「豈あに天に非あらざらん哉」（同書）

（これが天意なのだろう……！）

そう言うって韓信は劉邦の帰還を待たずして斬られます。主震わしたる者、身危うく、功天下を蓋う者、賞されず……。蕭何に始まり蕭何に終わった韓信の生涯です。

漢朝初期の混乱はこうした肅清だけではありません。外戚を中心とした混乱もあり、それは漢朝滅亡の危機を伴うものでした。

人豚事件ひとぶた

高祖（劉邦）が崩御すると、正妻であった呂后との間に生まれた太子が恵帝（二代）として即位しましたが、母親として呂后が実権を握り劉氏の支配を脅かし始めます。この呂氏一族による漢朝の混乱を見るには、まず劉邦の女性関係について語らなければなりません。

劉邦はそもそも女癖の悪い気質。農民時代には、兄の家に居候になっただけでいながら兄嫁と通じていたほどの節操のなさです。そんな劉邦も、挙兵する前に、富豪の娘である呂雉りよぢと結婚、一男一女をもうけます。この女性が劉邦の正妻となる呂后です。他方、劉邦は楚漢戦争の中で見初めた戚姫せきぎを寵愛します。やがて彼女との間に息子が生まれ、その愛情はそのまま息子にも注